

# 1人1台端末の活用による実践事例 (小・中学校用)

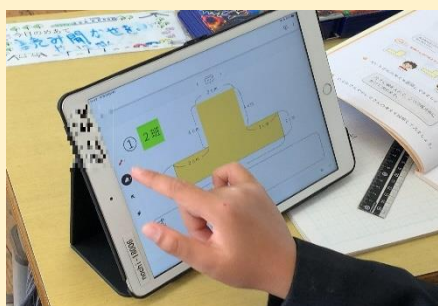
学校名	新見市立野馳小学校	実践者名	佐田 隆俊
教科	算数	学年	第4学年
活用内容	意見交流	実践日	令和3年10月28日
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 2
単元・内容等	「面積の求め方の工夫」 既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して、長方形の一部が欠けた図形の面積の求め方を考え、よりよい方法で面積を求めることができる。		

## 活用の概要 (目的・活用場面・使用アプリ名を含む)

### (1) 本時のめあてをつかむ

- ・本時で面積を求める複合図形を電子黒板で提示した後、正方形・長方形の面積を求める公式が使えないか問いかけ、見通しを持たせる。

めあて 面積の求め方をいろいろ考えよう。



### (2) 複合図形の面積を求める。

#### ①自分で考える。

- ・本時で考える複合図形を事前に Jamboard に貼り付けて置き、児童に共有する。
- ・面積を求めやすくするために、図形の内側や周囲に補助線等を書き加える。
- ・面積を求める際のポイントとなると思うことや立式等も画面上に記入する。

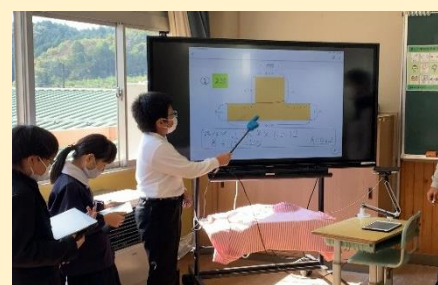


#### ②グループで話し合う。

- ・グループ内で、1人ずつ解き方を発表した後、最も「早く簡単に正確に面積を求める方法」をグループの意見として、Jamboardに入力する。

#### ③全員で話し合う。

- ・iPadの画面を大型テレビに投影し、グループの意見を発表する。
- ・全グループ発表後、どの考え方が、効率的かつ正確に答えを導き出せるかについて話し合う。



### (3) まとめと振り返りを行う。

複合図形を Jamboard で共有して話し合いを進めたことで、画面上で、図形に直接補助線や式を書き込みながら自分の考えを友達の考えと比較ができ、どの方法が効率的かつ正確に求められるかをじっくりと考えることができた。(指導主事より)

実践者の手ごたえ	児童生徒・保護者等の主な反応や声
図形の面積を求める際、補助線や文字を画面上で書き足し、即共有ができるので、効率的に児童の交流ができた。	(児童から) 「友達の意見を自分の意見の参考にすることができた。」「友達の考えや伝えたいことが画面を見ることでよく分かった。」